

平成28年度第2回 恵那市行財政改革審議会【要約】

日 時：平成28年10月27日(木)
午後3時00分～4時45分
場 所：市役所会議棟大会議室

1. 委嘱書の交付
 2. 会長あいさつ
 3. 市長あいさつ
 4. 会議の公開、公表について（確認）
 5. 議 事
 - (1) 第2次行財政改革の達成状況について 別冊「恵那市の経営」
 - (2) 指定管理者制度導入施設に係るモニタリング結果について
 - (3) 公共施設再配置計画に係る進捗状況について
 - (4) 公共施設の使用料の見直しについて
 6. その他
公共施設等総合管理計画策定について
 7. 閉会のあいさつ
-

出席委員

安藤仁志委員、伊藤常光委員、熊谷哲会長、児玉和子委員、芝田幸代委員、
シャープ典子委員、柘植麻美副会長、樋田一成委員、西部良治委員、本間英彦委員、
三輪哲司委員

欠席委員

加藤久雄委員、前田和久委員、矢頭禎朗委員、山本英史委員、鈴木誠オブザーバー

■司会（事務局） ……先般9月23日開催予定であった、第1回行財政改革審議会については、大雨警報により中止とし申し訳ありませんでした。資料の確認をします。別冊の「恵那市の経営」、資料No.1、資料No.2、資料No.3、資料No.4であります。

また、行財政改革大綱、行動計画、公共施設再配置計画はお手元にお配りしてある。

該当する委員のみ、マイナンバー制度導入に係る個人番号提供のお願い。提出されていない方は帰りにお願いする。

本日欠席はオブザーバー鈴木教授、加藤久雄委員、前田委員、矢頭委員。教育長、副教育長、教育委員会事務局長は本日公務で欠席であり、代理で教育委員会事務局の政策推進監が出席している。

山本委員がみえていないが時間になったので始める。平成28年度第2回恵那市行財政改革を開催する。4月の組織改編で昨年まで総務部で担当していたが、今年から市長公室総合戦略・人口減少対策チームで受け持つことになった。私は可知です。よろしく申し上げます。

1. 委嘱書の交付

■司会（事務局） 初めに、委員の交替に伴い、委嘱書の交付をする。地域自治区会長会議選出の西部良治様。

〔 市長から委嘱書を交付 〕

■司会（事務局） 西部委員に一言ごあいさつをいただく。

■西部委員 長島地域自治区会長の西部です。地域自治区会長会議選出委員ということで、恵那市の将来を決める大事な審議会に参加させていただき光栄だ。微力だがお役に立てるよう頑張りたい。よろしく申し上げます。

2. 会長あいさつ

■司会（事務局） 行財政改革審議会熊谷会長からあいさつをいただく。

■会長 2月にこの審議会で議論させていただいてから大分月日も経って、先月が中止になった第1回の協議会ということになった。その分ということもあって、今日の議事では昨年度までの行革の達成状況の報告を受けつつ、第3次行革の重要な取り組みである公共施設の再配置、施設の利用料金の見直しというところの大変重要なところをご検討いただくことになっている。久しぶりのところもあるので、事務局からの説明を受けつつ、活発なご意見を賜りたい。

3. 市長あいさつ

■司会（事務局） 市長よりあいさつをいただく。

■市長 前回9月23日に予定していたが台風16号で中止した。忙しい中ありがとうございます

います。西部委員には今後ともよろしく申し上げます。

今日は市からの説明が長くなると思うが、ご理解いただき質問もしてほしい。恵那市の経営という冊子を出した。これで総合計画、行財政改革大綱、市の各部課の目標を網羅して、恵那市がどのようなことをやっているか市民に知っていただくということで、続けて出している。この辺から説明する。第1次、第2次の行財政改革大綱でどのようなことをしてどのような効果があったかこの中で説明する。

第1次、第2次の10年間に85億8440万円の効果があった。当初の目標の98.1%進行している。かなり頑張っていると思う。これから、公共施設の再配置等について、総論賛成、各論では難しいということがあるが、事務局は各地域自治区で説明を終えたところだ。今後この建物をどうするかということになると、「いや、これは」という話が出ると思う。それをいかに踏み込んでいくかが大きな課題になる。

また、指定管理をたくさんやっている。それが本当に効果があるのか。むしろ譲渡して民営にすべきではないかという意見もあるかと思う。そんなところの説明をする。また、使用料についても何度も今までやってきたが、踏み込んでいくと、「いや、これだけは」ということがある。使用料は12月定例会で条例案を提案する予定でもあるため、意見をいただきたい。

第3次行財政改革大綱を作っていたときに、オール恵那市という考え方で作ってもらった。全体を見て考えてくださいと。これをいかにして進めていくかが我々行政の仕事でもある。皆さんの力強いご支援をいただきたい。

4. 会議の公開、公表について（確認）

■司会（事務局） 本日の審議会は、恵那市審議会等の会議の公開に関する指針により、公開、公表を行う。本日の会議は2時間を目途とし終了を午後5時と予定する。

これ以降の議事進行は慣例により会長にお願いする。

5. 議事

（1）第2次行財政改革の達成状況について 別冊「恵那市の経営」

■会長 第2次行財政改革の達成状況について、事務局から説明をお願いします。資料は事前に配布されていたので説明はできるだけ簡潔にお願いしたい。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問があれば。

■委員 恵那市の経営の2ページ、前期基本計画、めざそう値の快適に暮らせる便利な美しいまちの項目が一番低くなっている。後期基本計画についても3ページの快適に暮らす便利な美しいまちが一番低くなっている。これの要因は、道路、公共交通機関などいろいろと

39 ページ以降にあるが、低くなっている要因、恵那市の経営が始まってから低くなっているものもあり、少し上がっているものもあるが、全体的に低い。この要因と今後の進め方について、どんな考えをお持ちか。

■会長 事務局。

■事務局 総合計画の関係で細かい資料が手持ちとしてないのでお答えできない。後ほど、委員の皆さんに説明する。

■会長 恵那市の経営については、行財政改革部分で説明いただいたところを中心にということでお願いしている。ただ、ほかのところでも行革に関連しているところもあるかと思うので、質疑に対しご説明いただければ。また今日回答できなければ、後日説明していただきたい。

■委員 121 ページ、職員定数の適正化。完了となっているが、完了とは、行革の中で数値を完了したと捉えていいか。次の計画の中でさらにその数値を適正化するという考え方か。

■会長 事務局。

■事務局 第 2 次行革行動計画の目標値達成ということである。職員定数の適正化については、職員適正化計画を別に作っており、数値目標は行革と同じである。さらに今年度は新しい適正化計画を作っているの、その目標が達成できればまた完了になる。

■委員 その上の広告収入の確保というの、第 3 次になればまたこういう目標をもっていくということか。

■事務局 そうだ。

■会長 当初の目標を達成したという意味で完了という言葉が使っている。

ほかに。

では次の議題に入る。

(2) 指定管理者制度導入施設に係るモニタリング結果について

■会長 事務局から説明を求める。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 ご質問があれば。

■委員 音楽療法士をしている。このD評価の明智回想法センター、実際に私は出向いてないのだが、読んだ限りで私の経験から言いたい。私は親の介護をしており、ボランティアを月に 2 回ほど恵那市内でしている。回想法は、音楽療法では歌などから回想してもらうので、いろいろなものを使うが、回想できるものが並んでいるところに高齢者が行くというのも一つだが、高齢者が回想法センターに出かけるのが大変だと思う。回想法センターに置いてある物を他の施設に持って行く。そういうセンターがあるより、物をいろいろなところに持っていった方が高齢者の活性化になったり、そこの職員が使いやすいというか、プログラ

ムを立てるとき、歌を歌ったり、昔の物を見たりとできる。昨日ある施設で、私はトライアングルというグループだが、セラピストの友人が、この前オリンピックがありましたということで昔の五輪音頭で持って行って行った。そういうふうに私たちは回想していくが、本当に、場所があつてお客さんも待っているというよりも、物が移動した方が効果があるので、せっかくの物を、恵那市の楽器を使っているいろいろなところに行くが、物があつたら余計に回想ができたりするので、もう少しいい使い方ができると思う。センターに行ったわけではないので少しずれているかもしれないが。

■会長 ここは指定管理のモニタリングの結果報告を受けたので、指摘のあつたところを含めて、指定管理者がどのぐらい工夫、努力しているか、それを市が評価して、少し課題が多いという評価だったということなので、今のことも参考にするという形とする。

ほかに。

■委員 2点ある。1点は最後の改善内容。42と99が直営に変更した理由を知りたい。

■会長 事務局。

■経済部長 42は経営が成り立たなくなったので、これ以上苗の販売促進ができなくなったので、これをやめて、今の施設をそのままにして使わないようにしている。99の創手味亭(つくってみてい)は直営であり、ほぼ休止状態だが、施設としては条例上ある。経費がかかるので指定管理をやめて直営でやっているが、利用が少ないので直営に変えてまた検討している。

■委員 ということは42は経営をやめて施設は残っている。維持費は多少かかるということか。

■経済部長 そうだ。市の直営にしているのだ。

■委員 見通しは？

■経済部長 42の山岡花・野菜苗育苗施設は、田沢温室苗管理組合が一旦行っていたが、27年度やめて28年度は指定管理を出してないが、今いちご生産組合で何とか利用できないかということで話をしている。ただ、いちご生産組合は恵那市に4、5軒あり、利用して活性化を図ろうとしているが、今いちご農家では施設的に小さいので栽培がなかなかできないということがある。今度いちごの新種の開発をするというところで補助金を出し活用していただけるように話をしている。いちご組合の回答を待っている。

創手味亭はまだ細々と直営でやっている。方向性は出ていない。

■委員 かなり厳しい状況をどこまで続けるか気になる。

もう1件は104番。施設の老朽化に伴う修繕費の増加とある。指定管理者の場合は修繕費は指定管理者が負担するのか。

■経済部長 根の上高原の国民宿舎は、修繕は10万円以下は国民宿舎で修繕する。10万円以上は市がみるという協定だ。運営が、収入から支出を引いても人件費が出ない、灯油代な

どがかかるので、指定管理料で850万円市費を投じて運営してもらっている。

■委員 この改善指示事項を見ると、施設が老朽化している。利用者側から見ると、汚いところに行きたくないなということ。それから利用者の高齢化、そういう現状、問題点をどうやって解決していくかというのが改善の取り組みだと思うが。ちょっとリンクしていないような気がする。

■経済部長 書き方が変更してある。現状は、平成25年だと思うが、県の施設だったのを恵那市に移譲させてほしいという話があり、それは困るので、その条件として1億円かけてリニューアルした。それで始めた。経営改善としては、人件費が多くなったので、人件費を抑え従業員を抑えてサービスを変えて調理長も変えて改善を図っている。しかし、県で1億円かけたが、まだもう少し直さなければならないものがある。特に冬は寒いので、凍結して配管が非常に破裂する。かなり直しているが。そこに経費がかかっている。

■委員 私は違うところから来た者だが、来た当初は根の上に行ったことがある。夏場はものすごく車が止まっていた。結構観光客が来ていた。確かに観光客は多様化している。そういう中で根の上の昔のようにどんどん来てもらうことを考えるのは、一担当者レベルでは難しいと思う。もっといろいろな人の意見を聴いたり、ゼロベースで考えるような取り組みが必要ではないか。ご参考までに、意見として述べた。

■会長 104は、ホームページで公開されている管理運営業務の評価表では改善指示事項に該当するような指摘はなく、改善指示事項の中で老朽化に対応することなどが出てきている。実地評価を行ったことと改善指示事項がどのぐらいかみあっているのか。実地評価はBで運営の評価がCというのは、評価としてどうなのか。その関係性を説明いただきたい。

実地調査の中でも実施体制、管理運営、収支等というところを勘案して評価しているが、こっちがBで全体の運営状況がCというのは、一体何に起因して評価が変わってくるのかよく分からない。老朽化も、評価表では実施体制のところ、施設が古く備品等の修繕が多いが、接客に関しての満足度は高いと評価されている。なのに改善指示事項では施設の老朽化に対応することが必要だという書きぶりになっている。このあたりの、評価表とモニタリング結果でまとめられていることや、改善指示事項の具体的な記述の関係性を説明いただきたい。根拠があると思うが。

■経済部長 実地調査結果に対する実施体制及び管理運営、収支など、これを一つずつ項目を見ていった総合評価がBということだ。管理運営状況は、25年度に岐阜県から移管された。リピートの高齢者、冬季の収入源であるワカサギの不調により厳しい状況が続いているということなので、実施は一生懸命やっているが、管理運営的には、もう少し営業努力が足りないところからCにした。

■会長 ほかに。

■委員 60 串原田舎じまん館。改善事項で、実施体制の確保と販売方法を検討するとなっ

ているが、改善取り組みで、「豆腐を作る量を減らし、商品を日持ちするものに変更し販売する。コスト削減のため作業日を、3回/週から2回/週に減らす。」ということだ。たとえば豆腐をたくさん作っておいてこれが無駄になるということから日にちを少なくしたのかということと、商品を日持ちするものに変更するというのはどういうものに変更するのか。

■経済部長 新しい商品はまだ開発していない。ここの施設は豆腐とみそを作って地元の野菜を作って製造販売している。漬物、惣菜も販売している。コスト削減のため作業を減らし売れる商品を出そうということで、パッケージを変えたが、元々の商品的な作り方、新しいものは、現在なかなかいいものが出回ってこないなので、そういうことでコスト削減を図っている。

■委員 週2回に変更したのは人件費の削減が主か。

■経済部長 それよりも、売れ行きがあまりよくないので、それに見合った製造ではこの日数でいけるということだ。本来ならもっと販路を入れて人件費を稼ぐのだが、それができていない。

■委員 運営状況、業者アンケートはいいが実地調査のランク付けには基準があるのか。たとえば指定管理費に対して運営費が何%かとか、赤字ではなく黒字が出たらAとか。というのは、中心化傾向というか、B判定が非常に多い。CやDはあまりない。基準が疑問だ。

■事務局 評価の基本は、Bが非常に多い。Bは、協定を結ぶ際に仕様書を作成しており、仕様書に概ね沿っていけばB、ただしその中でも課題があればC。仕様書以外に成果を上げたものはA。Dは改善が必ず必要な項目があること。

■委員 たとえば利用者の、契約上の数字が100名と書いてあって、100名近辺ならBで、150人ならA、70、80人ぐらいだとC、全くできてないというのがD。そういう考え方か。

■事務局 そうだ。

■事務局 全部数字で割り切れないと思うが、イメージとしてはそうだ。

■委員 ちょっとしたイメージだが、ある程度のデータが必要になると思う。これから、評価も、利用者数が何人で、費用、経費、何%が赤字なり利益という数字のデータをたくさんやった方がいいと思う。ビッグデータの時代で、データの多寡によって計画が変わってくるということもあるので。なるべく数字を出すことが好ましいと思う。

■会長 実地評価のところではさらに細かい具体的な評価もして、その中で数字を定量的に採ったものもあると思う。そのあたりを説明してほしい。

■事務局 37項目のチェックシートの中では、施設の利用状況として、利用者数、稼働率が適正かという項目もある。ただし、大半の施設で、協定上は目標値、たとえば地域の集会施設のようなものも指定管理になっているが、年間利用者数、稼働率の目標を立てているものはほぼない。ただし、最近は数値で「見える化」というのが総合計画にもある。評価については、チェックシートの中で引き続き意見を尊重しながら取り入れていきたい。

- 会長 委員の発言はご意見ということで、今後の評価の見直しの参考にしてほしい。
- 委員 施設の一覧表で、モニタリングの結果で、利用者アンケートがしてあるところとしてないところがあるが、どういうことか。
- 事務局 利用者アンケートをしてないところは、一般的に、受益者がかなり限定されているところだ。地域の集会施設的なところが多い。ただし、地域の集会施設でないところでもアンケート未実施のところがある。アンケートをやることで改善内容が見えてくるところがあるので、今後はなるべくアンケートを取るよう担当課に話していく。ただし、地域集会施設等の狭い範囲での利用については検討したい。

(3) 公共施設再配置計画に係る進捗状況について

- 会長 事務局から説明を求める。
〔事務局から資料に基づき説明〕
- 会長 質問、意見はあるか。
- 委員 確認する。2は未実施で、1、3、4は実施済みで実績か。
- 事務局 工事発注をしたところだ。複数年にわたる場合もあるので、1、3、4は確実に実施ということになっている。
- 委員 先回送ってもらった資料は岩村のが未実施だったから「(実績)」を「(実績予定)」と変えただけのことか。
- 事務局 そうだ。
- 会長 再配置の状況で、今年度予定していたところでまだ手がつけられていないところ、自治区単位の説明会のところで、実際には進められていないものがあると思うが、それは今後説明会を含めて順次対応していくということか。
- 事務局 そうだ。
- 会長 これでよければ次に移る。

(4) 公共施設の使用料の見直しについて

- 会長 担当課から説明を求める。
〔事務局から資料に基づき説明〕
- 会長 本来、前回9月に予定していた審議会で説明し、皆様から意見をいただいた後パブリックコメントをかけその後今日を迎える段取りだったが、前回中止となったので、今日の段階で説明を受けパブリックコメントも終えている。質問、意見はあるか。
- 委員 5ページ③見直しを見送る48施設。2ページで、(例)として「廃止や譲渡予定の施設、現行料金が妥当と判断したもの」が含まれているので、48施設が2ページの(例)で言うとうとうどういふふうに分けられるのか。層別してほしい。現行料金が妥当だからやらない

という施設、廃止や譲渡予定があるから見直ししないもの、そういうふうに分けて見させてもらいたい。

もう一点、私はこういう案には非常に賛成だ。視点をどこに置くのかということだと思う。恵那市の財政をどうしていくかという経営という視点で見たとき、こういう料金をどうするのか、そういう視点でいくと、もっと取ってもいいんじゃないかと。「利用しない人（できない人）」とあり、できない人というのは意味が分からないが、利用者の視点で行くと100円が200円になると値上げだということになるだろうし。どっちで見るか。今この状況で、利用者には相応の負担をしてもらわなければならないと思う。

■会長 指摘のところについて。5ページの見送る施設について、たとえばこのままの水準が妥当のもの、廃止をするものに分けて、たとえばこの施設はこうだということをいくつか紹介してほしい。

■財務課長 ③の枠組みで、山岡郷土資料館、串原郷土資料館は廃止の予定。市民会館は廃止予定、アグリパーク総合管理センターは譲渡予定。大正村明智の森キャンプ場は廃止予定、東野運動広場は廃止予定。

6ページ、73施設の料金見直し事例は、見直しの可能施設は72なので訂正してほしい。

■委員 「見直しを見送る」のところに入っている、私も子育て中なのでプールを子どもが使い、自分のところにはプールが学校しかなくて山岡をよく利用しているが少し遠い。なかなか利用できない。利用できない人に入るのだと思う。B&G山岡・明智と上矢作、恵南地域に多い。利用したいが遠くて行けない。学校、学童で利用する機会を増やしたり、子どもが行けるインフラを整えてもらえともっと利用ができると思う。そういうところで子どもが行けない場所にたくさん施設があっても、使いたいのに使えない。そこを何とかしたらもっと使ってもらえる。料金は多少上げてかまわないと思う。その辺を考えてほしい。

■会長 B&G海洋センターは、プールを除くところは見直して、プールは見直しせずなんですが、どうして分けているのか紹介してほしい。

■財務課長 プールの見直しを見送るものでB&Gと上矢作プールがある。こちらは、料金の見直しの考え方の中で、近隣町村との比較で大差ないということで、現状のままの料金にしている。

■委員 見送るものの中の、明智の森のキャンプ場。これは指定管理ではないということか。

■まちづくり推進部長 少し前まで指定管理を地元にしていたが、今は利用がないということを含め、直営にして廃止する。廃止する中に地元払い下げのことも協議している。地元で必要なら移譲を受けていただき使っていただきたい。

■会長 質問する。基本的な考え方はすばらしい。維持管理にかかるコストを算定し、そこから受益者負担割合を上げて、収入を出して進めているところはすばらしい。しかし、2倍

という水準を置いたがために、本来あるべき水準からかなりかけ離れた引き上げ設定になっていて、このままだと何年か後にはまた料金の見直しをしないとイケない。中間的な見直しのようなところが見受けられる。元の料金が低すぎるので、市民感情からすると倍に増えるとしても、近隣から比べると半額以下のような水準のものの中にはあるように思う。そのあたり、担当課として、今回はできる限りの見直しをして、こういう考え方を適用しながら今後も引き続きあるべき水準をしかるべき時期に検討するという思いなのか。可能な範囲で答えてほしい。

■財務課長 確かに2倍になっても料金的にはリーズナブルだ。平成22年12月に策定した公の施設の考え方に係る指針の中で、激変緩和ということで2倍を上限とするという要項があり、それに沿っている。同時に、指針の中で見直しは原則3年ごととなっているので、3年後に改めて施設の使用状況、運営をかんがみ、原価を出して、新たな料金設定を検討する。

■会長 私は会長を仰せつかっているが、私が外部からこの審議会に入っている一番大きな理由は、よそから見たときにどうなのかというのを指摘することだと思うので、あえて申し上げた。私の生活拠点は京都にある。これはびっくりするぐらい安い。想像を絶するぐらい安い。地元の感覚は違うので一概によそに合わせるべきだということではないが、近隣市でせっかく比較しているので、これは維持管理費なので、建設費を除外しているので、フルコースで考えるとさらに一般水準よりかなり抑えられているところで算定されているので、次の見直しのときにはできるだけ適正な水準、近隣市との比較を見ていただきながら進めてほしいと期待する。

6. その他

公共施設等総合管理計画策定について

■会長 事務局から説明を求める。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問、意見はあるか。

■事務局 先ほどの委員の質問について。恵那市の経営の冊子は、総合計画、行財政改革、両方載っている。指摘のあった2ページ、前期基本計画の「快適に暮らせる便利で美しいまち」、達成数が1、策定当初の現状を上回ったものが5。これは恵那市の経営23年度版に、前期計画の達成状況が載っている。そこにめざそう値の内容がある。達成したものは、市道の舗装率。当初の現状を上回ったものは、地籍調査の実施率、都市計画道路の整備率、ケーブルテレビの加入世帯率、音声告知器設置世帯率。当初の数値を上回らなかったものの中には、市民意識調査のアンケートでの満足度を目標値にしたものは、率が下がっているところがある。

後期のものは、恵那市の経営の中の 62、63 ページに、「快適に暮らせる便利で美しいまち」のそれぞれの目標値のグラフがある。黒い実線は実績、薄い実線は目標値。黒い実線、目標値より上に行っているものが達成したもの。黒いところだけに着目すると、21 より上回っているものは当初の実績値を上回っている。この中で上回っているものは、地籍調査の実施率、耕作放棄地解消累計面積、生活道路の維持管理作業の延長距離数。こういった形で分析している。それとこの理由は、それぞれ全て理由が記述してあるわけではないが、39 ページから分析がある。達成しなかったものは今後どうするということが記述してある。達成率が非常に悪いが、いろいろな市民意識調査などで下がっている部分があると分析している。

■会長 これで議事は終わりだが、これまでの中で意見があれば発言してほしい。

■委員 先ほどの公共施設のことで、統廃合、再配置計画ということだが、必要なら新しい施設を作ることもあるか。

■事務局 公共施設の再配置計画は、行革の行動計画と、再配置計画に基づき進める。その中で、基本的には新しい公共施設は作らない方針だ。ただし、やむを得ず作らなければいけないという事例がある。そうした場合は同じような類似施設をなるべく統合したいと考えている。

■委員 最後に 2、3 ページを説明いただいた。ぜひ聞きたい。3 ページ、目標達成状況、達成数、達成率があり、合計では達成率 28.4%。上回ったものはいいとして、達成率 28%というのは、どういう数字なのか。単純に考えて、たとえば民間企業で言うと、目標達成率が 28%だと「え？大丈夫？」という数字だ。公共的な仕事をやっているとはやはりこのぐらいの数字になってしまうのか？ その辺がよく分からない。単純に見てびっくりした。これは、言い方が悪いが、管理されてないのではないか。個々に言い分はあるだろう。しかし、全体的にこう出てきた数字を見ると、そう思う。会長、いかがか。公共ではこういう数字なのか。

■会長 実際にどういう形で達成度を測っているかの計算の仕方を見てないと分からないが、たとえば満足度で 50%の満足度を掲げていて、それが 20%の満足度だと 4 割の達成度だという測り方をしていると、市として本来あるべき満足度を目標に掲げるが市民の満足度は低いというものが、達成度を大きく引き下げてしまう。それから、道路の整備を一生懸命やっけていて計画通り事業としては進捗しているが、恵那市の地理的な条件があっても市民全体としては市の公共交通だったり、道路網に対して、あるいは都市部へのアクセスに関して満足度が低い。低いのが悪いのかどうか。そもそもそういう地理的条件があるところを踏まえると、満足度は必ずしも、目指すところがどのぐらいなのかはあるが掲げる数字としては目標を高く掲げてしまう。結果として達成度は低く出ているものがあるんじゃないか。67 ページのグラフを見ても、目標と大きくかい離するのは満足度の数値

を上げているところなので。目標の立て方がいかなものかというのが一つあると思う。

それから、制約要件がたくさんあって、ある程度満足度のところは少し低めでも我慢しなければいけないところがあると思うが、そこを行政として低い目標を立てにくいところの、思いをかけているか、メンタルブロックみたいところが少しあるのかと。そこが委員のご指摘の、実際に合った目標設定ができていくかどうか、一つあると思う。

余談だが、私が別の自治体でこういう総合計画の目標を立てるときには、満足度は成果指標ではかけさせない。満足度と事業としての達成水準は全然違うものなので。満足度は市民の皆さんの考え方を測る上でとても有効な材料だが、成果指標とするのはふさわしくない。そうしている自治体がこのところ増えてきている。そこは今後の課題として見ていくのが一番だと思う。民間企業で達成度が28%だったらどこかに飛ばされる。目標の立て方、そもそも目標の意味は何なのかというところを、多分行政の皆さんはそこを理解した上であえてという数字を出しているところもあると思うが、数値としてどういうふうに見ていくべきなのか、今後総合計画、達成状況を把握していく中で大きな課題だ。

ほかにいかがか。

議事の中で触れなかったが、指定管理のモニタリング。実際に効果票を見ると、モニタリングの基本は実地調査なのでそれに依拠しての評価だと思うが、実地調査した中にも管理運営という項目があり、それ以外のところに管理運営状況という評価項目があり、さらに総合評価という評価項目がある。何か妙な感じがする。実地を踏まえた管理運営の評価は実地評価だし、全体評価は総合評価ですべきだと思う。そのあたりの評価に揺れがないのかどうか、実地の中で評価しづらいものがあってそういう形にしているのか。そこを一度精査していただきたい。

もう一つは、どうも所管課によってかなり評価の書きぶりが違って、これが市全体のモニタリング評価として統一的な目で見えているのかと疑問だ。実際はしっかりやっけて、単に書きぶりで評価はきっちりそれぞれの所管課でやっていると思うが、そのあたりが気になる。それぞれの所管課の評価がどうなっているかも、全庁的に並べて見てみるのが大事だろう。基本的に実地調査評価のところは加点減点しながら評価していると思う。そのあたりも、評価表で大して課題も書いてないのにCだったり、Bのところの高い評価をしているように見えるものがあったりする。何をもちってBなのか、Aなのかというのがよく分からないところがある。市民に、モニタリングをしっかりしてより良い運営ができるようにしているということを見てもらうことを意図していると思うが、評価は何かという尺度、基準も併せて示してもらえると、市民には分かりやすいと思う。数値を外れたところで、個人的な意見として述べた。

これで議事を終了する。進行を事務局に戻す。

■事務局 次回は3月を予定している。日程を調整し、委員になるべく早く知らせる。

7. 閉会のあいさつ

■事務局 副会長から閉会のあいさつを。

■副会長 お疲れ様でした。市長には、審議会としてはこれで最後のご出席になろうかと思う。第1次行財政改革から携わっていただき、いろいろな考え方を審議会委員に示していただきありがとうございました。今後は違う形でこの審議会の動向を注視していただき、私どもも厳しい財政状況の中でさらに厳しく審議を進めていきたいと思っている。ありがとうございました。

■市長 先ほど使用料が使いやすいという話があった。私もそう思う。2倍で抑えるということだが、前回かなり地域で反対があった。100円上げるだけでも地域懇談会でお叱りを受けたのでそういう形にした。これが3年ごとに見直すということなのでよろしくお願ひします。

指定管理は恵那市は特に数多くやっているの、これが本当にいいのかどうかはしっかり見て行かないといけない。場合によっては直営にしたり民間移譲にすることに踏み込んでいかないといけない。これから皆さんの力で、執行部が議会や市民の皆さんのところで叱られて帰ってくるような支えてほしい。

私は行財政改革大綱と総合計画は車の両輪、そういったものということを示してきた。合併したまちは大変難しい状況がある。12年経ってもまだおらが村という意識が強い。行財政改革はオール恵那という話をした。そういう観点から、皆さんが真に合併したというまちを創ってほしいと思っている。12年間お世話になり誠にありがとうございました。

■事務局 閉会する。

[閉 会]